

むか~し、 むかしのお話。

神様から動物たちへ

「大切な話があるからあつまりなさい」と

声がかかったんだって。

動物たちは大慌てで、神様の前に集合。

みんなを見て神様はね

「みんな集まってくれてありがとう。 そこで、みんなの中から一匹ずつ 私も少し年をとってきて疲れやすくなってきた。 年(とし)の当番を決めて、 てもらたいと考えているんじゃ」。 私の仕事を手伝っ

「神様のお手伝いができるって! 「やったー うれしい

動物たちは大喜び。

神様が言います。「静かにしなさい」

明日の朝、早く着いた順番に、手伝いしてもら「そこで、みんなにやってもらいたいことがある。 う当番の12匹を決めることにした。 わかったかな」

「はーい。わかりました。 ていくんですね」明日の朝、着いた順番に手伝いする12匹を決め

「早く帰って、 準備しなきゃ」

動物たちは、 楽しそうに帰っていきます。

> んか~し、 んかしぬ むんがたい。

神様から いちむしたーかい

「でーじな はなしぬ あいとう あちまりろー」とう

くいが かかったんろーや。

めーに いちむしたーや あちまたん。 うふあわていてい、

神様や むる みちから

「むる わんや うたいやしく なとーんろー。 とうしぬ なかから かんげーとー しぐとうぬ あちまってい ばん ちゅいなー んろー。 ていがね とうし きみていから、 くりてい んろー。あんし、 にふえ とうらせ わんぬ むるぬ とう

「神様ぬ 「やったー かふー しやっさー ていがねー ないんち!

神様が いちむしたーや 仲様が いいみしぇー「しずかにしぇー」 うむっさしちょー Α̈́

「なー、 いちむし なー むるが あちゃーぬ 順番に きみー しーとうらすん ·んばー。 ていがねーすん ひていみてい、ふえー わはてい くとうが ーな」 ۲ あいん。 ばんぬ

「んーさい、わはったんろー。 ていがねーすん あちゃーぬ 12ぬ いちむし ちゃん きみー んばーや」

「ふえーく ならんさー」 けーてい、 じゅんびさんね

いちむしたーや いっぺ うむっさし けーたん。





明日、頑張って早起きしなくちゃ」神様と同じくらい偉くなるって、ことだよね。神様のお仕事のお手伝いができるってことは、「すごいなぁ。

早起きして、神様のお手伝いをするんだ」「そうだね。

「僕が、一番になって、当番になるんだ」

「私が一番になるんだ」

みんな、大張り切り。

みんなで大騒ぎの帰り道です。

がネズミ。でも、大騒ぎしている仲間たちとは離れているの

なんだか考え事をしているようです。

そこへ、大慌てで駈け込んで来た動物がいます。

ならんさー」 おばてい ふぇーく うきらんねーあちゃー、ちばてい ふぇーく うきらんねー神様とう ゆぬぐとう ちゅーばーに ないんばーや。神様ぬ しぐとうぬ ていがねー ないしや、「ちびらーさっさー。

ふえーうきし、神様ぬ(ていがねーすんろー」「やっさー。

「わーが、一番 なてぃ、 とーばんに ないさ」

「わーが 一番 ないさ」

むる、うふちばい。

むる あびやーち けーんみちろー。

ふぁなりてぃ ういしや えんちゅ。やしが、あびやーちそーん るしぐゎーたーとぅ

ぬーやが かんげーぐとう しちょーやっさー。

う~ん」 ねーがやー・・・。 「ちゃーぬがし 一番に ないしぬ 方法や

いちむしが ういんろー。 うまんかい、うふあわてぃし ちかゆったん





神様のお話ってなんだったの?」「ねぇねぇ、ネズミさん。

のはネコさん。フーフー、息を切らしながらネズミに聞いている

間に合わなかったみたいだね」「今さっき聞いたばかりで、急いできたんだけど、

心の中で、

「しめた! 一人ライバルを減らすことができるぞ」

と思ってネズミさんは

選んで、神様のお手伝いをさせるんだって」明後日の朝、神様のところに来た順番に12匹を神様のお話というのはね、僕がちゃんと教えてあげるから大丈夫だよ。「こんにちは、ネコさん。

ネズミさん、教えてくれてありがとう」今度こそは遅刻しないように、早起きしなくちゃ。明後日の朝だね。

神様ぬ(ふぁなしや)ぬーやたんばーが?」「えー、えんちゅ。

ちちょーしや まやー。ふーふー、いちきらし えんちゅかい

うくりたんばーな」「なまさち(ちち、いすじ)ちゃーしゃー

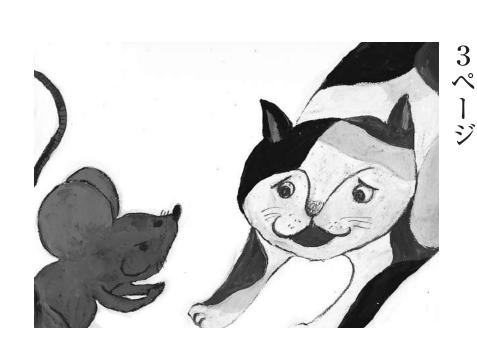
ちむねー、

ないんろー」 ちゅい らいばる ふぃらすし

とう うむてい えんちゅや

「はいさい、まや-神様ぬ 神様ぬ わーが ちゃる あさていぬ でーじょーぶよ-ちゃんとう ていがねー12 ふぁなしや、 ひていみてい、神様ぬ 12 ぬ **'**0 ゆ しみーんり」 いちむし いらび、 とうくる

えんちゅ、ゆしーていくりてい(にふえーろー」ふえーうきさんねー(ならんさー。なまからや)にーささんぐとう、あさていぬ(ひていみていやさや。「ふんとうーやんばー、えんちゅ。





次の日の朝です。

の家に一番になろうと、早起きしたネズミさんが、神様

向かって走っていると、

ノソノソゆっくり歩いているウシさんに会いました。

「やあ、ネズミさん。きょうは早起きしたんだね」

「うん。神様の家に行くために早起きしたんだ」

なくちゃ」さぁ、ネズミさんに負けないよう、急いで行かんだ。(僕は歩くのが遅いから、前の晩から歩いてきた「いいなぁ。

い浮かんだんだって。それを聞いたネズミさんは、パッとある考えが思

ウシさんの背中に乗せてもらえませんか」もう疲れてしまって一歩も動けない。走ってきたけど、

ネズミさんは、今にも倒れそう。

あちゃーぬ ひていみていろー。

神様ぬ(やーかい)一番ないんり、ふえーうきしちゃる(えんちゅが、

はーえーしむかてい、

のそのそ よーんなー あっちゅる うしに えーた。

しちゃんばー」 しちゃんばー」 かんちゅっちゅーや ふえーうき

ふぇーうき しちゃんろー」「うん。神様ぬ やーかい いちゅんたみに

わんねー あっ「いいなぁ。

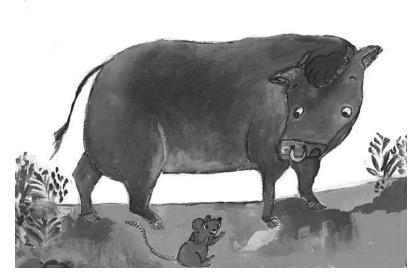
いかんねー ならんさー」さぁ、えんちゅに まきらんぐとう、いすじゆるから あっちょーんろー。

かんげーぬ ちぶるんかい うかびたん。ふり ちちから えんちゅや、ぱっとぅ ある

うしさんぬ くしに うんぶし とうらしぇー」うにげーやさ。 ちゅふいさん うんかんろー。うむてい いすじ はーえー しちゃしが、「うしさん。わんが 一番 ないさーとう

えんちゅや、なまと一りんろー。

4ページ





ウシさんは良い人なので、それを聞くと

約束するなら、背中に乗ってもいいよ」でも、僕が一番になるんだからね。かわいそうだから、僕に乗ったらいいよ。「そうかい。小さな体で頑張ったんだね。

と叫びたいのを我慢して「やったー!」ネズミさんは、

約束します」ウシさんが一番で、僕が二番だよね。「うん。ありがとうございます。

と疲れ切った顔で、ウシさんに言ったんだって。

良い人で、人を疑うことを知らないウシさんは

「どうぞ」

て。やさしく、ネズミさんを背中に乗せてあげたんだっ

「やっと、神様の家が見えてきたぞ」

ウシさんが、背中のネズミさんに声を掛けました。

開きます。すると、神様の家の門がギギギーッと、ゆっくり

「やったー、僕が一番だ」

ウシさんが、喜んだそのとき、

うしゃ いーっちゅ やぐとう、ふり ちちから

しみんろーよー」 やくすくしえー、くしに ぬていんやくすくしぇー、くしに ぬていんやしが、わんが 一番ろーや。ちむぐるさぐとう、わんかい ぬれー。「やんばー。ぐなはん どぅーでぃ ちばたんろーや。

うふむにー ちむに とうみていえんちゅや、

やくすくろーやー」うしさんが 一番、わんが 二番やさ。「うん。にふぇーろー。

いーっちゅやとう、ちゅ(うたげーねーん)うしやでい、うたとーん(ちらし、うしに)いーたんろー。

「ぬれー」

うふやしく、えんちゅ くしんかい ぬしたん。

「やっとう、神様ぬ やーが みーたんろー」

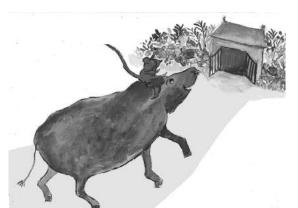
かきたん。 うしさんが、くしぬ えんちゅんかい くぃ

ぎぎぎーっと、よーんなー ひらちゅん。ふぬとうき、神様ぬ やーぬ じょーが

「やったー。わんが 一番やさ」

うしが、ゆるくんだ ふぬとうち、

5ページ





「やったー。 僕が一番!:」

走ってネズミさんが中に入っていった。

「ああーっ、インチキー」

ウシさんが言っても、 もう遅い。

何も知らない神様は

二人とも偉いぞ」 ウシが二番かぁ。

ニコニコ笑顔で、二人を出迎えます。

ウシさんはもう何も言えなくなってね、

ネズミは、いつかバチが当たるはず」「まぁ二番でもいいか。

って考えて、 神様のところに挨拶に行ったんだっ

しばらくすると

「着いたぞー」

ギさん。大きな声で走り込んできたのは、トラさんとウサ

みたい。 同時に見えたけど、 少しだけトラさんが早かった

> 「やったー。 わんが 一番!!

いっちゃん。 えんちゅが なかんかい

「ああーっ、いんちきー」

うしが いいたしが、なー に一さん。

ぬー hわからん 神様や

「おー たいや 一番や ちゅ -ばーやっさー」 えんちゅ、うしが 二番やちや。

われー -われー から、 たい むけー

うしや ぬーん いらんたん

「まぁ えんちゅや、 二番し いちか し
お
さ
。 ばちぬ あたいるはじ」

えーさち いちゃんり。とう うむてい、神様ぬ とうくるんかい

しばらくすると

「ちゃーんろー」

うふまぎーくいし とうらとう , ぃし はーえーし ちゃーしぇー、

とうらが ゆんぐとう ふえー -はたん。 -たしが、 いふぃぐゎ

6 ペ ジ





次は誰かな?

神様が待っています。

「はぁはぁ、やっと着いたぁ~」

やってきたのは、リュウさんとヘビさん。

約束してしまったから、大変だった。走ってくるからねって、「みんなに、僕は空を飛ぶんじゃなくて、地面を

でも、早かったみたい。良かった、

良かった」

た。リュウさんの方が、体が長いから、負けてしまっ「僕も急いできたんだけどな。

疲れたけど、良かった良かった」

ました。ペロペロと舌を出しながら、神様の家に入ってき

次にやってきたのはウマさん。

「寝坊してしまったぁ」

つぎや たーやがやー?

神様がまっちょーみしえーん。

「はぁはぁ、やっとう ちちゃんろー」

ちーたしや、りゅーとう へび。

やしが、ふえーはたん。じょーとー、じょーとー」やくすく しちぇーとう、でーじやたん。ちゅーんろーんり あらんとう、じーに ふぇーてい おるんかい、わんや すら とうぶんしや

うたたしが、じょーとー じょーとー」まきたんろー。りゅーや、どぅー なげーさ やとぅ「わんにん、ふぇーく ちゃんろー。

いーたん。 ぺろぺろ しば いじゃち、神様ぬ やーに

つぎに いーたしや うま。

「ひていみてい にーぶいしぇーっさー」

7ページ





さぁ、残りは5匹。

「次は誰が入ってくるかな?」

神様が、ニコニコ笑顔で待っています。

すると、

ヒツジさん、サルさん、ニワトリさん、イヌさんが、

一緒にやってきました。

「最後は誰かな?」

神様が言いながら、外を見ています。

「おお、イノシシだ」

「良かったぁ、間に合った!」

イノシシさんが、嬉しそうに入ってきました。

「ご苦労さん」

と、神様。

さぁ、なーふぃや 5ひき。

「つぎや たーが ちゅーがやー?」

まっちょーみしぇーん。神様が、にこにこ(わらてい

すると、

ひつじ、さーるー、とうい、いんぬくゎ、

まんなー ちぇーつさー。

「あとうや たーやがやー?」

みちぇーみしぇーたん。 神様が いーみしぇーながら、すとう

「おお、いーやっさー」

「じょーとー、まにあーたん!」

いーが、うっさしい一ていちゃん。

「ゆー ちばてーさやー」

とう、神様。





9~1>

「みんな良かったね」

「本当に、間に合って良かった」

「これから、よろしくお願いします」

みんな嬉しそう。

絶対、12匹の中に入ると思ったのにね」「あれっ、ネコさんがいないね。

それを聞いてネズミさんが

「本当だね。どうしたんだろうね」

大喜び。 でも、みんなは、自分が12匹の中に入ったので、

ネコさんのことは、すっかり忘れてしまいました。

「やったー、僕が一番だぁ!」

次の日の朝、神様の家に入ってきたのはネコさん。

「むる じょーとー」

「本当に、まにあーてい じょーとーやたんろー」

「なー、うりから ゆたしく うにげーさびら」

むるうっさそーん。

うむたしが」かんなじ、12ひきぬ(うちんかい)いるとう「あれっ、まやーが(うらんさー。

ふり ちち えんちゅぬ

「本当やっさー。ちゃーそーがやー」

いっち、うむっさそーん。やしが、むる、どぅーが(2ひき)うちんかい

まやーぬ くとうや、むる わしりとーたん。

「やったー、わんが 一番やっさー!」

ちょーたしや まやー。 あちゃーぬ ひてぃみてぃ、神様ぬ やーんかい

9ページ





それを今ごろ、なんだ」当番を決めるのは昨日のことだ。「バカもん。

当番って、今日の話じゃないんですか?」「ええっ?

この馬鹿者がっ!」それなのに、お前はなんだ。一番はネズミ、二番はウシに決まったぞ。今頃来ても遅いわ。

神様に叱られて、ネコさんはしょんぼり。

なったのは、ネコさんが、ネズミさんを追いかけまわすように

それからのことだよ。

くてたまらないんだって。今でも、ネコさんは、ネズミさんを見ると、悔し

ネズミさんは、そんなネコさんから逃げるために、

暗い場所で暮らすようになったんだって。

むか~し、むかしのお話さ。

やー なんま、ぬーやが」とーばん きみたしや ちんぬーやたん。「ふりむん。

やいびたんなー?」とーばんや、ちゅーぬ ふぁなしー「ええっ?

くぬ ふりむん!」 くぬ ふりむん!」 くぬ ふりむん!。 おまぐる ちーん にーさんろー。 なまぐる ちーん にーさんろー。

まやーぬ、えんちゅ あとう ういまーすしぇー神様んかい ぬらーり、まやーや しょんぼり。

ふりからぬ くとう やたんり。

わたむげーいんり。なまん、まやーや、えんちゅ(みーねー、

えんちょー、ふぬ まやーから ふぃんぎーんり、

くらしみぬ とうくるに くらちょーんり。

んか~し、んかしぬ むんがたいやんろー。

10ペリジ





年末になると、

年賀状を書くよね

とう

んゆ

るぬ

なれ

年賀状かきんろり

ふぬとうち、

『十二支の始まり』 はじめー(ふぃんとな くとぅば=辺土名言葉編)」

発行日:2018 (平成30) 年3月27日

修:内間早俊 (昭和薬科大学附属高等学校・中学校教諭)

共通語原稿執筆:宮城一春

「十二支ぬ

辺土名くとうば話者:宮城克松

絵 :和田瑞希

発 行:沖縄県文化観光スポーツ部 文化振興課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

力:しまくとうば普及センター (沖縄県文化協会)

センター長 波照間永吉

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 文化振興課内

作:合資会社 沖縄時事出版

代表 名幸諄子 編集責任 吳屋栄治

〒900-0025 那覇市壷川1-3-10 TEL 098-854-1622 (編集部)

表紙



(生まれ年ってな~に?)

そのとき、

「来年の干支ってなんだっけ?」

んじゃ くく - ないかな? 大人の人たちが言うのを聞いたことがある

そう、 干支って、 なんだろうね

みんなは、

知っていたかな?

だから十二支ともいうんだ。

だよ。

と始まる12匹の動物を、干支っていうのはね「わ 年にあてはめたものなん・うし・とら・う・・」

んでい、 「くるとうしぬ うふっちゅた えとや

め

やがや

ちちゃくとうが あい んがば い やい?し

んば や、 えとや、 め やがや

とうしに う・ えととう 十二支とういいいはみていからや。 かいらい 始まてい しや 「に・ 12 ぬ いちむ とうら・

しっちょ んば

むる

やくとう

い

んば

十二支ぬ -やがや (うまりどうしゃ

ふいんとな くとうば編 (辺土名言葉編)

はじめ